

町民体育館の機能回復に向けた判断と今後の見通しについて

1 令和3年度着工に向け準備を進めていた長寿命化計画の内容

- 外部改修（外壁、鋼板屋根、屋上防水改修など）
- 内部改修（床、壁、天井仕上げ材の改修、トイレ洋式化改修など）
- バリアフリー改修（玄関車いす対応スロープ改修、多目的トイレ新設など）
- 設備機器改修（照明器具、電気設備機器配線改修、換気設備改修など）

2 2.13 福島県沖地震の揺れと施設被害の実態

地震の揺れ		施設被害の実態			
2011 東日本	2021 福島沖	町民体育館		武道館	
マグニチュード	マグニチュード	外部	スチール窓枠破損等	外部	窓枠、ガラス破損
9.0	7.3		屋根トタン剥がれ		外壁板、堅樋破損
震度	震度		給水管破裂		
6強	6弱	内部	屋根ブレース破断	内部	照明器具落下
ガル※ 1,137	ガル 1,432		屋根支承部 UB 緩み		内壁破損

※ ガル…地面が揺れたときの「加速度」を表す単位

3 災害復旧を可能とする耐震診断の結果

結果（耐震性能を満たさない部位）	改修方法 案
屋根ブレース（たわみ・破断）	交換（全カ所 ブレース材 D16mm⇒D20mm）
鉄筋コンクリート柱（塑性化）	増厚（14カ所 鉄筋コンクリート柱 700mm⇒1100mm）

4 3つの選択肢に係る比較検討

〔単位：百万円〕

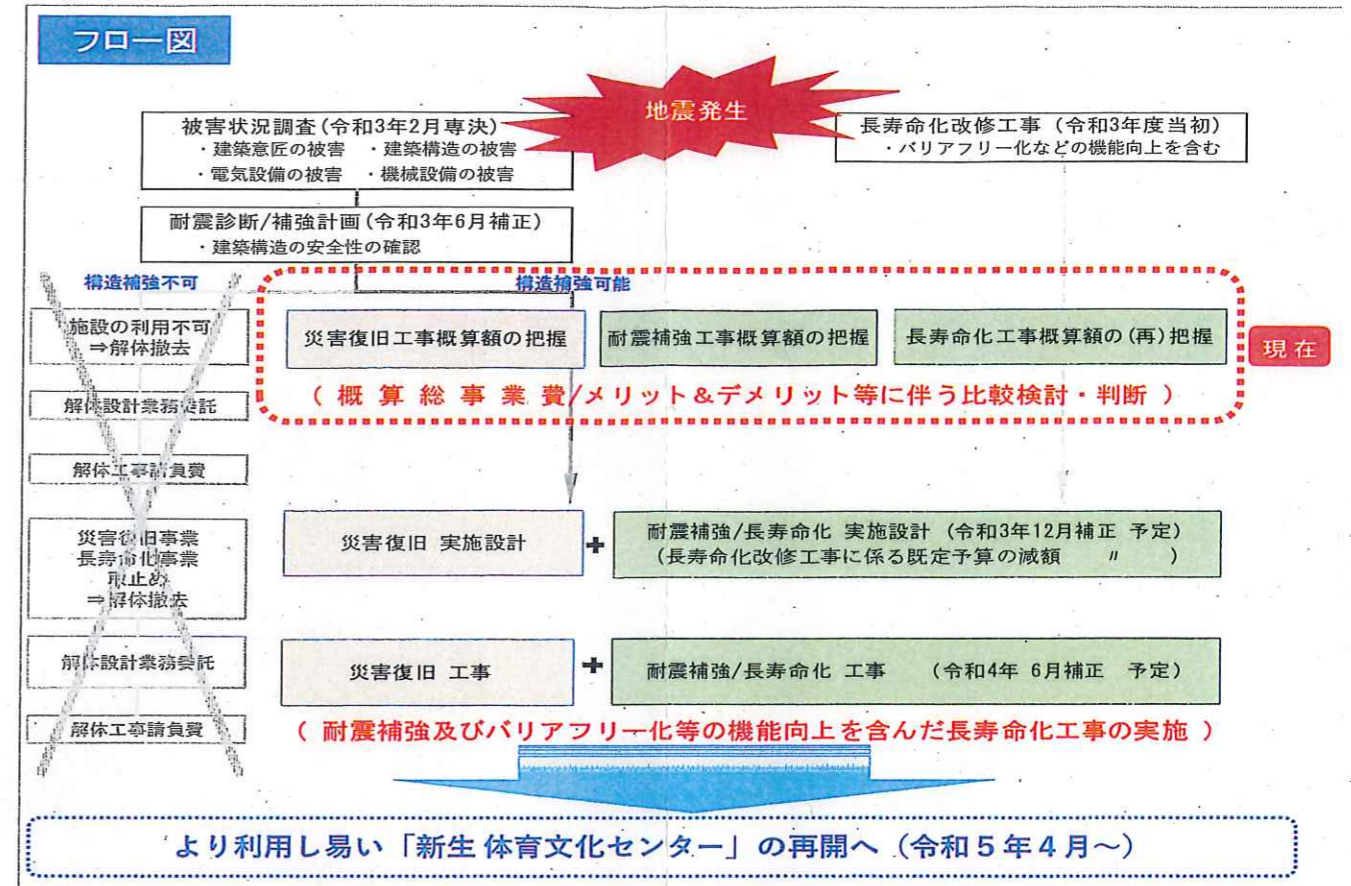
方法	概算総事業費		利用可能年数(予測)	1年あたりのコスト	利用開始時期の見通し	選択肢の評価	
	うち一財					メリット	デメリット
① 災害復旧 (災害/耐震/長寿命)	449	416	30年 ^{±α}	13.9	令和5年度	・施設機能の向上 ・Gとの相互利用	・財政負担(中)
② 新築 (体文取壊含)	1,414	1,402	50年 ^{±α}	28.0	令和6年度	・多機能化が可 ・Gとの相互利用	・利用開始(遅) ・財政負担(大)
③ 旧坂元中 (体文取壊含)	119	119	20年 ^{±α}	6.0	(令和3年度)	・既存施設の活用 ・財政負担(小)	・物理的制約有

〔機能回復に向けた総合的な判断〕

災害復旧については、

- 建物の堅牢性が確保できたなかで、施設のバリアフリー化等の新たな機能が付加される。
- 町民グラウンドとの相互利用・機能連携が引き続き可能である。
- 新築や旧坂元中への利用も魅力的ではあるが、それぞれのメリット・デメリットを総合的に比較考慮すると、災害復旧を選択することが望ましい。

5 災害復旧（災害復旧/耐震補強/長寿命化工事）を選択した場合の今後の手続きの流れ



6 今後のスケジュール(案)

	令和3年度(5回)			令和4年度(9回)			令和5年度(7回)		
	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	
町民(広報紙など)	現在		→				→		
利用団体(一般含)	→		→		→		→		
教育委員会(総合教育会議)	→		→		→		→		
議会	→		→		→		→	→	

→ については、説明会や周知、会議などを予定する時期の見通しを示す

7 臨時休館中におけるスポーツ活動団体等への配慮

- 〔登録団体〕山元中体育館等の一般開放を通じ活動環境を確保(令和3年6月～)
- 〔上記以外〕旧坂元中体育館の利用再開を通じ // (令和3年12月～)

〔参考〕町民体育館の利用者推移(人)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
16,100	14,525	7,376